

やまざと



「コブシが映える残雪の道」

白い雲を見つめていると
思い出す
確かに踏みしめてきたはずだ

青い空にコブシが映える残雪の道
満天の星が降る夜明け前の道
黄色や赤や絵の具で彩られた落葉の道
ラッセルで心臓が悲鳴をあげた新雪の道

なぜ歩き始めたのだったろうか

空を流れる白い雲たちよ
憧れは今も続いているのだ

**いやはや、
なにはともあれ、
歩き出すぞ!!
2004新年号**

「やまざと」VOL.18

いやはや、なにはともあれ、歩き出すぞ！！ 2004新年号

))) CONTENTS

表紙

題字(23期・中川 晃成) コピー(20期・久富 象二) イラスト(21期・竹中 敏)

))) PAGE))) TITILE))) TEXT
01	OB会長就任にあたって	19期・梅 典雅
02~03	金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会会則	
04~07	創立45周年記念総会・懇親会 概要	
08~09	現役の皆さんからの声 ~45周年記念行事に参加して~	45期・森本 達也 46期・敝田 聡子/池田 幸平/伊藤 亜希子/荻田 真憲/岩田 奈穂子 47期・中西 浩之/山本 一成/山本 容子/久保田 泰加/村田 豊子
10~17	写真でつづる■KUWV45周年事業	21期・大野 直子
16	45周年事業 記念品カップの制作者 [ワンゲルOB諸氏からの海外赴任 健闘記]	20期・中村元風氏 紹介
18~19	●韓国・スオンだより	20期・高田 泰夫
20~21	●中国・蘇州だより	21期・岡崎 秀二
22~23	●ブラジル・サンパウロだより	21期・山口 克己
19	2004OBスキー合宿 情報「スローライフ、スロースキー」	
24~26	新ネパール紀行「ネパールで感じたことなど」	20期・久富 象二
27	ワンゲルの卒業生は皆OBです	

奥付

OB会長就任にあたって

19期 梶 典雅

2003年9月13日に開催された金沢大学ワンダーフォーゲル部創立45周年記念およびOB会総会におきましては、顧問の前田先生をはじめ、ご出席いただきました皆様、お世話をいただいた新旧役員、関係各位に厚くお礼を申し上げます。

OB会ができて10年が経ちました。この間、初代会長の大島さん、二代目会長の奥名さん、事務局長として二期にわたり会を支えられた舟田さんをはじめ、役員諸氏のたいへんなご苦勞に対し、心から感謝と敬意を表する次第です。

この総会において、我々が役員として会の運営を引き継ぐことになりましたが、正直申し上げます、我々も前役員としてそのたいへんさ、困難さを承知していたがゆえに、躊躇しました。「この総会で幕引きをして、当分の間休会という選択肢もある」との示唆もありましたが、さすがにそれは違うだろうと言うことで、これまでのような充分なことはできないにしても、なんとか引き継いでいこうということになったわけです。

決断をしたのが、2003年の4月、実際に準備に動き出したのは8月も下旬になってからというのが偽らざる状況でした。そのため、さまざまな不手際や行き届かない面が多々あったことと存じますが、事情をご理解の上、なにとぞご容赦をお願い申し上げます。

さて、次期会長を引き受けるにあたって、数人の役員候補メンバーが集まった際に、私はひとつのイメージを話しました。それは、OB会の仕事を「楽しみながらやろう」ということです。言うほどに現実には甘くないでしょうし、批判もあるかと存じますが、そもそも当会の主目的は「会員相互の親睦」です。それを忘れないようにしたいと思います。役員は会の召使いではなく、だれかがしなければならぬお世話を進んでやっているだけです。したがって、しばしばみられる幹事・役員は「滅私奉公」、参加者は「お客さん」という構図にはしたくないと思っています。また、楽しげな役員の方の活動の姿は、きっと次につながっていくのではないかと期待もしているところです。

ともあれ、「楽しみながら」をモットーに、できる範囲内でやっていきたいと思っていますので、ご理解とあたたかいご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

具体的な事業としては、次のことを検討しつつ、実施していきたいと考えています。

1. 会報「やまざと」の発行

- ・年1回発行を継続し、コンパクト化を図りつつ山以外の話題も載せて楽しめるものに。

2. 行事の開催

- ・「山小屋酒場」は、新オヤジの穂積さん（13期）にお願いし、引き続き実施する。
- ・スキー合宿は、世話役の青柳さん（11期）にお願いし、引き続き実施する。
- ・できれば年に1回程度、ミニ総会といった感じの山行・懇親会などを行う。

3. 部歌の制定

- ・50周年記念に向けた事業として、部歌または愛唱歌もしくはOB会歌を制定する。
- ・今期中の制定を目指し、OB会員（現役）から作詞・作曲の募集をする。

（本件に関する総会での私の提案と下手なパフォーマンスは、私個人があたためていた「思い」の一端であり、実は新役員もビックリでした。大筋で同意をいただけたのではないかと受け止めています。今後、会員に諮りつつ進める予定です）

（注）本稿は総会当日に話した内容にできるだけ沿いつつ会誌用に書き改めたものです。

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会会則

第1条（名称）

本会は「金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会」と称する。（以下本会と称する。）

第2条（構成）

本会は金沢大学ワンダーフォーゲル部に所属した卒業生で構成する。

第3条（目的）

本会は会員相互の親睦をはかるとともに、現役部員の幅広い活動環境の維持を支援し、もって金沢大学ワンダーフォーゲル部の発展に寄与することを目的とする。

第4条（行事）

本会の目的を達成するため、次の行事をおこなう。

1. 会誌の発行
2. 会員名簿の整理
3. 記念行事
4. その他目的達成に必要な諸行事

第5条（役員）

本会の目的遂行および運営を円滑におこなうため、会員の互選により、次の役員を置く。役員任期は5年とし、再任を妨げないものとする。

会長	1名
副会長	1名
事務局 局長	1名
会計	1名
幹事	若干名

第6条（連絡員、運営委員）

本会の円滑な運営のため、会長の委託により各期1名の連絡員と若干名の運営委員を置く。

第7条（顧問）

本会の運営に必要な指導と助言を仰ぐため、顧問を置くことができる。

第8条（機関）

本会に次の機関を置く。

1. 総会
2. 役員会

第9条（総会）

総会は5年ごとに開催するものとし、会長がこれを召集する。総会では以下の事項を決する。

1. 本会の会計に関する事項
2. 会則の改廃に関する事項
3. 本会の行事に関する事項
4. 役員を選出
5. その他、本会に関する諸事項

なお、役員会の決定により、会長は臨時に総会を召集することができる。

第10条（役員会）

役員会は第5条の役員をもって構成し、本会の運営に当たるため随時開催できる。

第11条（役員補充）

役員に欠員が生じた場合は役員会で補充する。補充役員の任期は前任者の残任期間とする。

第12条（会費）

本会の経費は会員の納める会費と寄付金を持ってこれに充てる。会費は年間2000円とする。ただし、役員会において必要と認めた場合は臨時会費を徴収することができる。

なお現役部員の部活動に対し役員会の決定により、その費用の一部を本会の会費より充当することができる。

（付則）

本会則は平成5年8月21日より実施する。

本会の事務局は事務局々長宅に置く。

平成10年9月12日 第5条 改正

新役員（案）

会 長	19期	梅 典雅
副会長	20期	久富 象二
事務局長	21期	大野 直子
会 計	23期	鳥越 伸博
幹 事	20期	深田 進
”	21期	梅 睦美
”	22期	森 恵利子
”	23期	中川 晃成
”	23期	名倉 均

金沢大学ワンダーフォーゲル部 創立45周年記念総会・懇親会

平成15年9月13日(土)・14日(日)
石川県白峰村 白山まるごと体験村内
白山国立公園センター、御前荘・緑の村

日光を浴びよ 自然に親しめ
浩然の気を養え 民謡を唄え
山に登れ 伝説を取りもどせ
祖国の土に芽ぐむ魂を思え
そしてさらに
身体を健全にし 厳格にして自己を訓練し
青春の精力を濫費するな
(創立モットーより)

G u i d e M a p



スケジュール

9月13日（土）

16:00～	受付	
16:30～17:30	総会	白山国立公園センター2F レクチャーホール
17:30～19:00	夕食入浴等	夕食：各コテージ 入浴：御前荘
19:00～21:00	懇親会	緑の広場（雨天：レクチャーホール）
21:00～	自由時間	

9月14日（日）

7:30～ 8:30	朝食	各コテージ
8:30	散会	
～15日	二次会（希望者）	ベルクハイムにて

総会次第

（司会 森 恵利子）

・開会			
・会長挨拶	15期	奥名 正啓	
・顧問挨拶		前田 達男	
・事業報告	15期	舟田 節子	
・会計報告	23期	鳥越 伸博	
・新役員選出	15期	奥名 正啓	
・新会長挨拶			
新役員紹介		新会長	
・現役主将挨拶	46期	敵田 聡子	
・中村元風氏紹介	15期	舟田 節子	
・事務連絡	22期	森 恵利子	
・閉会			

懇親会次第

（司会 岡部 伸一）

・開会			
・開会挨拶、乾杯	3期	田村 昭夫	
・各期代表挨拶			
1～10期	1期	仙田厚太郎	
11～20期	11期	青柳 健二	
21～30期	21期	大野 直子	
31～40期	37期	柴田 祐介	
41～44期	41期	田村 賢司	
・アトラクション		現役、OB有志	
・ワングル歌合唱			
・閉会挨拶			
万歳三唱		新会長	
・閉会			

OB参加者一覧

期別	氏名
顧問	前田 達男
1期	仙田 厚太郎
3期	北 正昭
	鈴木 兵一
	田村 昭夫
	登内 郁夫
	西尾 皓史
4期	高田 昌嗣
	森島 稔
	佐藤 秀紀
5期	久島 俊也
6期	上野 伊み子 欠席
	大崎 進
	久島 洋子
7期	村田 泰恵
8期	穴田 昭一
	伊豫 欣二
	篠島 益夫
	柳川 徹
9期	白井 勇
	保田 敦
11期	青柳 健二
	加藤 忠好
	〃 智美
	〃 手依里
	守内 成一
	森川 功
12期	近藤 正興
13期	柴田 茂樹
	〃 訓子
	辰野 隆義
	橋正 徹
	南 梅子
	吉田 穂積
	吉本 良治
15期	上馬 康生
	宇野 潔
	奥名 正啓

期別	氏名
15期	坂尻 忠秀
	舟田 節子
	松林 知一
	高村 千佳子
18期	椿川 利弘
	藤森 忠夫
	岡部 伸一
19期	梶 典雅
20期	深田 進
21期	大野 直子
	梶 睦美
22期	森 恵利子
23期	鳥越 伸博
26期	畠山 潤
37期	柴田 祐介 欠席
38期	吉原 正敏
41期	田村 賢司
	林 司
	森田 善文
	竹内 利行
	河村 浩之
42期	角谷 誠
	矢内 佑一
	越前 聡子
	前川 昌宏
43期	小倉 亮
	阿納 真弓
	加藤 菜就
	清水 健作
	井沢 寿予
	矢田部 桂
	谷上 望
44期	杉村 明慶 欠席
44期	谷村 一成
	西 大輔
	河原 一美
	山本 資治

追加参加者

8期	保田 志津子
41期	市山 祐司
41期	得田 馨理
42期	笹田 竜之
42期	志賀 寛人
42期	坂本 一樹
43期	奥野 岳志

現役の出席者は4回生…松山、深作、森本、古田、渡
 3回生…荻田、岩田、伊藤、松本、しょうだ
 2回生…中西、山本(容)、久保田、山本(一)
 1回生…村田

(他多数参加)

※20期 久富象二(当日は都合により欠席となりましたが、翌朝、後台本に馬駆けつけられました)

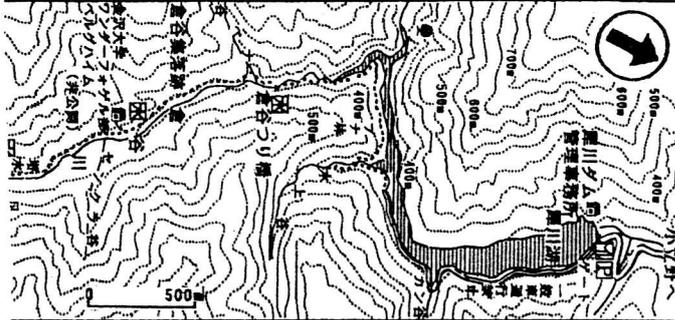
創立45周年記念総会

二次会（兼・秋の山小屋酒場）

9月14日（日） 総会行事終了後、倉谷へ、分乗出発します。暴風雨以外実施。

＊日帰り散策…金沢市の水瓶犀川ダムと、山小屋を訪ねます。

＊1泊…囲炉裏回りを制作します。夜：酒場開催



＊日帰り散策はいかがでしょうか？

ほぼ平地。途中で水場多数。

コンビニで、昼食を仕入れたら、楽々往復できます。ご希望の方があれば分乗の手配をします。

＊泊りたい方。シュラフの余分をお貸しします。

買い出しは途中でやりますので、飛び入り可。

＊今回行かなかったら、二度と行けないかも…。ご希望の方は、本日中に、舟田までお知らせ下さい

新・分県登山ガイド（番外編）

金沢の上高地
金大ワンゲル史蹟？

倉谷 B H
くら たに ベルク ハイム

標高 400m
危険度☆ 難易度☆
歩行時間 1時間20分
歩行距離 5km

◎登山適期 4月下旬～6月 9月～11月上旬

倉谷には、江戸時代から昭和にかけて金山があった。最盛期には400戸の家が建ち並び、馬車も往来したという。昭和38年の犀川ダム建設により、麓の二又集落とともに全戸離村した。その一廃屋を高台（寺院跡）に移築し、倉谷の新たな住人となったのが、金大ワンゲル部。以後、新道（ナガ、クラコシ尾根）、犀滝ルート、見越山への犀奥登山道を伐開。小屋は昭和49年に改築。平成5年大修復。平成8年より、金沢市スポーツ振興課の助成をうける団体となり、登山道整備が継続されている。

犀川ダムまで舗装道路を走る。ヘリポートをひかえたダム管理事務所が見えると、高三郎山もその上に聳えるようになる。山菜シーズンには手前の谷まで縦列駐車が延びていることもある。

平成13年秋には重機が入り、約30年ぶりに吊橋の見える付近まで、林道（一般車通行禁止）が復活した。が、翌年水上谷手前で上部からの崩落により約20mに渡り埋没。徒歩か舟かの入山が継続し、秘境を保っている。

ダムを背後に数分、舟着場に下りる手前右にある石積は、昭和45年6月、新トレで15期桂茂樹氏の倒れた地点。さらに20分、顕彰碑2基の左脇には、昭和53年4月、卒論調査の入山で遭難した19期高桑弘親氏の慰霊碑がある。ここから道はカン谷に大きく回りこみ、昔刀利へ抜けたと言われるかすかな踏み跡を見送って、さらにダム湖沿いを進む。

前述の崩落箇所を越え、かつては渡渉まがいをしていた水上谷をそれと気付かずまいでしまうと、左に良好なブナ林が広がってくる。水没した二又集落の、雪崩止めとして保存されていた林である。

出島で二又川を見送り、左の谷に折れる。ワンゲルOBならこのあたりから、さしずめ帰ってきた蛙のように倉谷の匂いが感じられてくるはずである。まもなく赤い吊橋が見え、春であれば満々の水、秋であれば中央を細々と流れるせせらぎを跨ぐ。苔むしたゆるい登り坂を越えれば倉谷集落跡。広がった谷に点在する石組、石碑、倒れた石鳥居、発電所跡が、人の住んだ地を物語っている。小さな流れを2本渡り、かつてはワンゲルテントが並んだ川原に至ると、右に最近のテン場と、水場を認める。BHへの道はそこから、昔どおりに斜面をあがっており、一登りで青屋根と「ご対面！」である。

◎ワンポイントアドバイス

＊「ベルクハイム」は小屋建設時の当時の金大由長による命名。部誌の名前にも兼用された。その和訳である「やまざと」はOB会報名に使用される。小屋用地は、営林署へ3年毎に9000円の賃貸料を払い借用更新している。

＊小屋左の「愁心碑」は、桂氏の3回忌に制作。平成7年月見の宴の際、補修された。

＊倉谷集落跡は、元金沢市職員の山下忠氏がボランティア草刈りを続けている。

現役の皆さんからの声

～45周年記念行事に参加して～

たくさんの方々から、原稿を寄せて頂きました。皆さんの声に力づけられました！ありがとうございます。50周年では一緒に歌いましょう。

45期 森本達也

日頃会う機会のないOBの方々に出会えたのは貴重な体験でした。上映会の時には渋い音楽に乗ってワングルの歴史を振り返ることができましたし、飲み会の時には歌を聞かせていただき、楽しいときを過ごすことができました。

46期 徹田聡子

OB会では普段接することのないOBの方々と交流がもて、今と昔で変わったことや変わらないことを知って、ワングルの良さやおもしろさを改めて実感しました。特に、昔は夜テントの中で歌を歌っていたということにたいへん驚きました。いったいいつどのようにその習慣がなくなったのか気になりましたが、なくなったと思われる代の方々が全然来られなかったため、結局分からず残念です。それにしてもOB役員の方の歌は上手で、しかも多くの歌を知っていてとてもうらやましく思いました。夜、いっしょに歌ったりそれにまつわる思い出を聞いたりしたことは良い思い出です。次のOB会は五年後ですが、また一緒に歌えることを楽しみにしています。

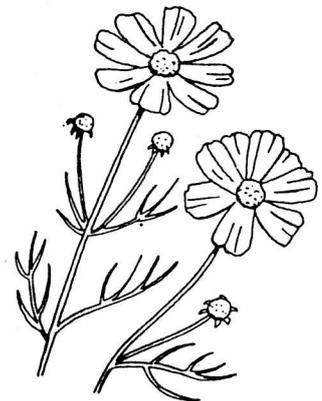
46期 池田幸平

実はOB会でOBの方々と話したという記憶がない。忘れたということではなく、実際に話していないからだ。開会式が終わり、飲み始めてしばらくすると寝てしまった。起きた時には閉会式であったためOBの方々と話せない事が残念だった。

しかし、後日お疲れさん会でその機会を得られた。会が始まる直前まで山に登っていらっしゃる方が多く、現役としてショックを受けた。現役との違いや共通点を知ることができ、OBのパワーというか現役の力の無さを感じた。情報交換の機会に恵まれ、良い経験となった。

46期 伊藤亜希子

山の歌をたくさん聞くことができ、また当時のワングルの活動や、山の思い出なども聞かせてくださり、とても楽しい時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。OB会を主催して下さった先輩方の前々からの準備など見えないご苦労があったからだと思います。本当にありがとうございました。五年後も楽しみにしております。



46期 萩田真憲

ワングルのOBは、皆さん元気な方ばかりであるという印象を夜のコテージの中での集まりの時に受けました。特に新役員の方々の熱唱ぶりには圧倒され、現役に勝るほどの元気と若々しさがあると感じました。自分もOBの方々のような明るさと元気さを見習っていききたいと思いました。それでは五年後に再び会えるのを楽しみにしております。

46期 岩田奈穂子

5年に1度のOB会とはいえ、0期田村さんから48期現役生まで、あんなにたくさんの方が集まるワングルの団結力に驚き感動しました。昨年、一昨年に卒業された先輩方にお会いできたのはもちろん、今までお会いしたことがなかった大先輩方のお話が聞けたり、山の歌なども教えていただいて、とても楽しい会でした。卒業して10年、20年経って、石川から遠くはなれた土地に住んでいたとしても、OB会にはぜひかけつけよう！と思いました。

47期 中西浩之

OB会楽しかったです。様々な先輩方がおられて、ワングルの伝統を感じることができました。私たちもこのすばらしい伝統を引き継いで、よりすばらしいワングルにしていきたいと思います。そして後輩たちにも引き継いで行きたいと思います。もう少し大先輩の方々と接していろいろな話をお聞きしたかったと思ったのが唯一の心残りな点でした。

47期 山本一成

OBの人がたくさんいて驚いた。歴史の重みを感じた。自分も将来はこんな風にみんなに会いたくなるのかな～と思った。それにしても昔も今も飲み会は激しいですね。

47期 山本容子

OB会では金大のワングルが自分の想像以上に昔からあることを感じました。キャンプファイヤーが雨で中止になったのは残念でしたが、OBの方達と交流ができて楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。

47期 久保田泰加

この間のOB会ではお世話になりました。OBの方々に初めてお会いしましたが、どなたもパワフルで、山に言っている回数もとても多く、現役の私たちよりもよっぽど“現役”だと思いました。沢山刺激を受けることができ、参加してよかったと思います。ありがとうございました。

48期 村田豊子

一番の思い出は、OBの方々と一緒に歌を歌ったことです。ワングルの歌集にのっている、私たちの知らないたくさんの歌。みんな気持ち良さそうに声を張り上げていて、その雰囲気は最高でした。いつまでも心に残る歌っていいなあと思いました。

写真でつづる■KUWV45周年事業

——その日、平成15年9月13日(土)、石川県は、全国的にも異様に暑い一日でした。

OB 諸氏と現役のみんな約100人の熱気が白山麓に集中したせいかな……、

はたまた、新スタッフの情熱がそうさせたのか……。

そう言えば、ワングル現役時代も、

炎天下の登り、どしゃぶりの沈殿、厳冬期の二つ玉低気圧……と

なんでも楽しんでいたっけ。

そんな私たちは、やっぱり、100人分のおにぎりづくり、

雨のキャンプファイヤーもとことん味わいつくしたのです。——







この雑文は、21期周辺で交換しているメールに、
45周年事業の報告をしているメール文です。
すごい乱文で申し訳ありませんが、
当時の余韻さめやらぬ臨場感が出ているか……と思い、
掲載させていただきます。あな、二度目のはずかしや……

こんばんは 大野直子です。

21期、22期の皆さん方に45周年OB会の報告をしなれば・・・
と、思いながら、ゆく夏を惜しむような残暑九月と
OB会の疲れ（私はほとんど何もしなかったのですが・・・）と
余韻に浸っているうちに、気持ちのいい秋が来て、ほーっとしていました。

郁子さんが言ってくださったように、
新生OB会は、スタッフからしてうんと楽しんだ会になったと思います。
その楽しさは
榎新会長夫妻の現地下見からはじまり、冷静沈着な会計の鳥越くん、
八面六臂の活躍を見せてくれたえりちゃん、
いつも柔和な深田さん、久富さん・・・などなどが
たくさんの方の労力と時間を費やしてくださったたまものです。
ありがとうございます～～～

9月13日は、最高気温が36度という厳しい残暑の日でしたが、
そんな暑さなど忘れてしまう1日でした。
朝、スーパーの駐車場に集合した私が見たのは、
榎家のパジェロの荷台に
後ろが見えなくなるほどの大量に積み込まれた缶ビール。
そして90人分の食料の買い出し、秋吉へ焼き鳥を買いに行ったりと
女の子の部長を含める現役ワングル生と協力してその日がスタートしました。

白峰のロッジでは、3棟に別れて、現役生が食当係となり
おにぎりやメッタ汁を作ってくれました。
なにせ、90人分。
そりゃあ、食料買い出し表作成の時点からもうたいへんです。
ホントによく頑張ったよ、むっちゃ～～～ん！！ アリガトウ！！
途中で、メッタ汁の味噌が足りない・・・！？なんてハプニングも起こって、
「ホワイトガソリン下山」はあったけど、「味噌下山」はまだオレ経験してねえー
なんて洒落たことを医学部の男の子が言ってくれちゃったりしました。



炎天下のもと、駐車場誘導に立ってくれた若者たち
総会の大部屋の準備をしてくれたスタッフたち
そして各ロッジの個性豊かなおにぎり&メッタ汁を作ってくれた部員たちと
みんなの協力で着々と準備が進みました。

いよいよ、夕刻。総会が執り行われました。

肅々と引継が行われたその終盤、

司会のえりちゃんの台本にはない榎新会長の突然の発声が・・・

「僕はここで重大発表をしたいと思います！！」

エッ・・・？ 何を言い出すんだろうと、新スタッフがハラハラするなか

榎さんは、おもむろにギターを取りだし

「僕たちが辞める次回5年後の50周年OB総会までに

この新しいスタッフを中心として、金大ワングルの部歌を創りたいと思います
だって、金大ワングルの部の唄がないのはいかにもザンネン・・・」

法政大学ワングル部歌の「エーデルワイスの歌」や

「一人の山」などのしっとりとした唄など、さわりを弾いて

大先輩のOBの皆さんに曲調のリクエストを求めました。

最後には11期の加藤さんが作成してくれた

金大ワングル創設当時のビデオを鑑賞。

その素晴らしい編集に、予定では順々に温泉へ入ってもらうはずが
だれ一人席を立つ人はおらず・・・

1期の田村氏などは一番前の席に移動してかぶりつき。

あの懐かしい部室前の、山への出発風景が映ったときは

私も思わずうるうるとこみ上げてくるものがありました。

そんなこんなで総会も無事終了。

キャンプ場では雨が心配されるなか、

ふか～たサンと現役男子部員が頑張ってくれてキャンプファイヤーの準備。

大量の缶ビールを近くの沢に冷やし

白峰の堅豆腐や生野菜もオードブルに用意して準備は万端。

岡部（村池）さんの司会で燃えさかる火のなか四高寮歌も歌って行われました。

でも、雨がひどくなって、二次会の後半はロッジにて。

新スタッフはなんとなく火のそばを去りがたく、

奥名旧会長や最愛の妻山田和子さんを亡くしたばかりの傷心の宇野さんなど

キャンプファイヤーの周りに残り、

みんなで山の唄を歌いまくりました（もち、榎さんのギターの伴奏付き）。

みなさん、、、♪「白山の尾根」っていう唄、覚えてますか？

この度、ワンダーフォーゲル創部45周年にあたり、記念品を造らせて頂きました。お世話頂いた舟田さんの、心に残る記念品がほしいと言う熱意に動かされました。また、山代温泉ホテル百万石から依頼され5年がかりで制作し今年秋完成する、日本百名山を100枚の絵皿にする仕事の過程で、ワンゲルにいたから出来た仕事だなと実感し、その感謝の気持ちもあります。

金大ワンゲルにいた人間にとって忘れることの出来ない3つの山、白山、高三郎、医王山を描きました。その下の山々や、里の風景はご自分で決めて頂けたらと思います。

末永く身近において使って頂ければ幸いです。

金沢大学ワンダーフォーゲル部20期

中村 元風 (旧姓 土屋正登)



元風グリップのテミカップ
 ありがとうございました!!
 中村元風(ビッグ)さん

< 中村元風陶歴 >

昭和30年、石川県に生まれる。金沢大学大学院で生物学の研究者として哺乳類、鳥類の生態を研究。大学院在学中から祖父(中村翠恒、日展参与、県無形文化財)の指導のもと、ロクロから上絵付まで、陶技全般の修業を始め、約10年の修業の後、作品を発表し始め現在に至る。祖父亡き後は三代徳田八十吉先生(人間国宝)に師事している。



平成4年、日本伝統工芸展初入選以後、連続入選し、平成7年、日本工芸会正会員に認定される。

平成14年、加賀市文化財保護審議会委員に就任。

平成15年、山代温泉ホテル百万石、ふるさと百名山絵皿100枚完成。

古九谷を基にした端皿(小皿)、持ちやすい元風グリップの付いたカップ、独自技法ふくら手色絵窯変による作品が主な特徴。

< 住 所 >

〒922-0862 石川県加賀市大聖寺錦町13-37甲
 TEL・FAX (0761) 73-3800

今九谷元風窯 中村 元風

白山とかヒマラヤとかひととおりに歌ったら、
一人ひとり出身地に歌詞を置き換えて歌っていく唄です。
たとえば樺さんだったら、
片町・・・犀川のな～がれ～、ヨッパライが獲れる～～～♪というアノ唄です。
私は今回のOB会で、この唄を新スタッフで歌い回したことが一番心に残りました。
だってその後も、家で、ごはんづくりをしているとき、
知らぬ間に♪「白山の尾根」を口づさんでいるんです・・・よ。
あの時きつと、私は25年の歳月を巻き戻して
金大ワングル現役部員になって、
どっかの山のテントの中で歌っているような気持ちになったんだと思います。

廃材もようやく燃え尽き、ロッジに戻ると、
大先輩たちはひとつのロッジに集まり宴会が佳境でした。
そこで、現役生も呼び込んでロッジに集結し
再度、唄、唄、唄の大宴会が始まったのでした。
現役生が山の唄をまったく歌わなくなっていたことには驚きましたが・・・
サミシイゾ、カナシイゾ、魚ノ目ニ涙・・・
宴会は、現役生は4時まで続き、就寝。

翌朝はカップヌードルでもうそれぞれ勝手にやっちゃくれ～～～という感じ。
おおのなおこは二日酔いで完全に撃沈しておりました・・・。
お開きの挨拶では
「新スタッフ一同、『たのしみながら』を合い言葉にやっています！！」と
樺新会長が高らかに宣言して終わりました。
おしまい。。。。

こんな半分ヨッパライの文章にながながとおつきあいくださいましたあなた、
アナタハ、エライ。ご苦労さまでした。
(きっと明日読んだら、冷や汗ものだと思います・・・)
ありがとうございました。
合掌。

21、22期の皆さん方、
気が向いたら、OB会費、年2000円、5年で1万円を宜しく願いいたします。
そして、50周年では、金沢に集い、歌い、語ろうではあ～りませんか！！
新生部歌も聴けますよ～～～

では、長くなり、本当にごめんなさいでした。
秋の週末の夜長
梅酒を片手に・・・

～ ワンゲルOB諸氏からの 海外赴任 健闘記 ～

●韓国・スオン日より

飲み屋での注文には、苦勞しなくなりました。

20期 高田 泰夫

昨年、8月からソウル近郊の水原（スオン）で単身生活をしています。ハングルは、絵文字のようで初めはさっぱりわからなかったですが、習い始めてみると結構簡単で、語順も日本語と同じだし、わかりやすい言葉です。意思の疎通が出来るようになるには、まだまだですが食堂や飲み屋での注文には、苦勞しなくなりました。大阪人の雰囲気を持った韓国人は、私には合うようです。当分、こちらに居ますので韓国の来られた時は声を掛けて下さい。

【ある日、高田氏から届いたメールより】

皆さん、元気でしょうか？日本は、まだまだ残暑が厳しいようですね。

こちらは、私が赴任した8月から涼しい日が続いています。というより、8月が雨が非常に多かったです。

昨日今日と、久しぶりの雲一つない晴天で、風のようにすから秋晴れという感じで非常に気持ちがいいです。

やっと、1ヶ月経ちましたが、言葉もまだまだ判らず、会社とアパートの往復だけの生活をしています。バスに乗るのも難しく、移動はもっぱらタクシーと先週買った、自転車です。

食事は、会社で朝、昼、夜と3食出るので、休みの日以外あまり苦勞しません。辛いのが苦手な私なのでどうなるかと思っていましたが、実際食べて見ると、本当に美味しく、合っているみたいです。アパートにADSLをいれたいのですが、何か回線がいっぱいのように、9月末までダメみたいです。しょうが

ないので、2日程前からNIFTYのローミングサービスを使って電話回線で、インターネットを始めました。会社では、使えるのですが、セキュリティーが非常に厳しく、個人使用をしていると保安員が注意しに来るようです。会社への入退門も警備員がチェックをしています。空港の金属探知機のようなゲートを通って会社に入ります。もし、会社のもを無断で持ち出しするのを見つかり首になるそうです。そのせいか、会社へは、手ぶらで来る人が非常に多いです。僕は、リュックで行くのですが、何日かに1回は検査されな

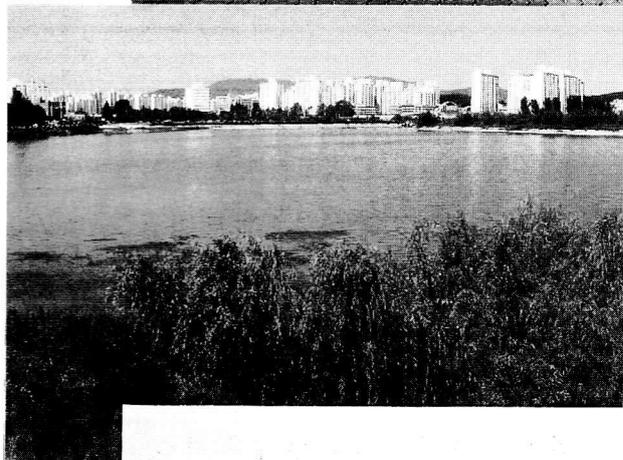
す。昨日は、自転車で、2時間程かけて、西湖に行ってきました。湖というより池ぐらいの大きさで、水は栃尾君の家の前のお堀に水のように濁ってました。

この湖は、3匹しか取れずに絶滅してしまった、「ホンダゼニタナゴ」の唯一の生息地で有名です。名前から判るように発見者は、日本人で、現存する標本は、シカゴ博物館に1尾

だけらしいです。現在は、釣り禁止らしいですが、韓国のことだから釣りをしているかなと思いついて見ましたが、やっぱりだれも釣っていませんでした。

水原は、華城でとても有名です。これは、全周5.7kmの城壁で、町を取り囲むようにあります。現在は、世界文化遺産に指定されています。時間を見ては、回って見ようと思うのですが、町は起伏が激しく、自転車ではすぐ息切れです。

ではでは、韓国は近いですからカルビでも食べに来てください！！秋は、まったけも安いみたいです。



Takada Yasuo(高田泰夫)

TEL : 82-31-211-5543 (アパート)

office : 82-31-218-2348 (直通)

携帯 : 82-119254-5552 (HP)

E-MAIL : yasuo_takada@hotmail.com

新メンバー大歓迎!! 2004スキー合宿●モットーは「スローライフ、スロースキー」

実施日■ 2004年2月21日(土)～22日(日)〈通常、参加者により前後1日ずつ延長されます〉

開催地■ 例によって 野沢スキー場&共同温泉浴場13湯

宿泊先■ リゾートハウスふるさと 長野県下高井郡野沢温泉村6556

☎0269852241 (宿泊代は、1泊2食付約8000円)

幹事長■ 森川 功 幹事長代理■ 青柳 健二

申込み■ 2004年2月7日(土)までに メールまたは電話にて森川か青柳までお申し込み下さい。

森川 / isaom@bl.mmtr.or.jp 0594-22-0353

青柳 / KENAOYAGI@aol.com 048-481-0275

* 和室2部屋を確保しますが、家族参加の場合は別室を確保しますので、その旨お申し込み下さい。

* 野沢温泉スキー場、リゾートハウスふるさと、積雪などの情報は各ホームページでどうぞ!

<http://shinshu.online.co.jp/nozawa/>

<http://www.nozawa.com/furusato/>

●中国・蘇州だより

週一のゴルフ…。嗚呼、でもやっぱり、 恋しいのは、愛妻・多英子の手料理 ……。

21期 岡崎 秀二

私が最初に中国の大地に足を踏み入れたのは、94年8月、ちょうど関西新空港がOPENする直前だった。当時はろくに海外に出ることがなかった私には、上海まで2時間余りで着いてしまうなんて考えられなかった。しかし、蘇州までは、上海（当時の虹橋空港）から、狭くてろくに舗装されていない道を車走ること（約100km 信号はほとんどない）3時間もかかってようやくたどり着くところだった。

この地に我社の中国工場を立ち上げるべくプロジェクトの一員として下見に来たのである。空気は埃っぽく、車はろくにエアコンが効かない、冷たい飲み物もほとんどない。当時の4つ星ホテルのレストランでも冷たいビールがないことが多かった。それでも最初のうちは、中華料理のフルコースを出されるままに食べていたが、塩辛くて、油っぽい物を毎日食べていると、もういやになってしまう。

最初の下見だから6日で帰国したが、ひどい下痢で日本の医者に行ったほど食べ物があわなかったのである。その後約1年半で初期任務を終え、96年3月に帰国した。この間は、生活するだけでストレスがたまるといっても過言ではない時期で、2ヶ月に1回は帰国しないと心身ともにおかしくなってしまうそうなくらいひどい生活だった。

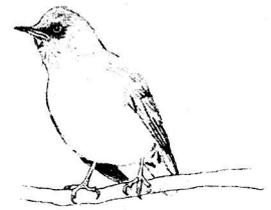
というのは、食事があわない、日本料理がほとんどない、あってもごくわずかでしかもすぐ

味が変わってしまう。それでもマンションに移ってからは、朝食は自炊するようになったので少しは良くなってきたが、お婆さんの作る夕食ははずれが多い。

また工場内の空調がろくにきかない、仕事コートを着込み、パッチをはいてやっと耐えられるかなといった具合なのに、中国人は窓を開けっぱなしにするし、建屋のつくりが悪いので隙間風がすごい。マンション内では、停電、断水、ガス切れは当たり前といった具合で住んでいる人のことを全く無視しているようだった。そのくらい生活水準が低かった。

当然娯楽というものは皆無に等しく、休日の過ごし方が大変だった。ゴルフ場は上海まで行かないといけないし、しかも高い。スナックやクラブも極わずかしがなく、日本のカラオケはほとんどなし。当時はホステスが横に座ることもなかった。（罰金約15万円だそうだ）。

こんな蘇州だったが、私が出戻りで2001年9月に来たときは余りの変わりように驚いた。日本を含む外資系の企業進出で、高級マンション、道路の整備、高級ホテルの建設があとをひかない。それにともない、日本料理、飲み屋が今でもどんどん増えており、今では食事に関することは全くないし、飲み屋でも日本のカラオケが盛りだくさん。ホステスはちゃんと横に座るし、ほとんどの人が日本語を話す。こうやって日本人がお金をばらまいたおかげで、女性（小



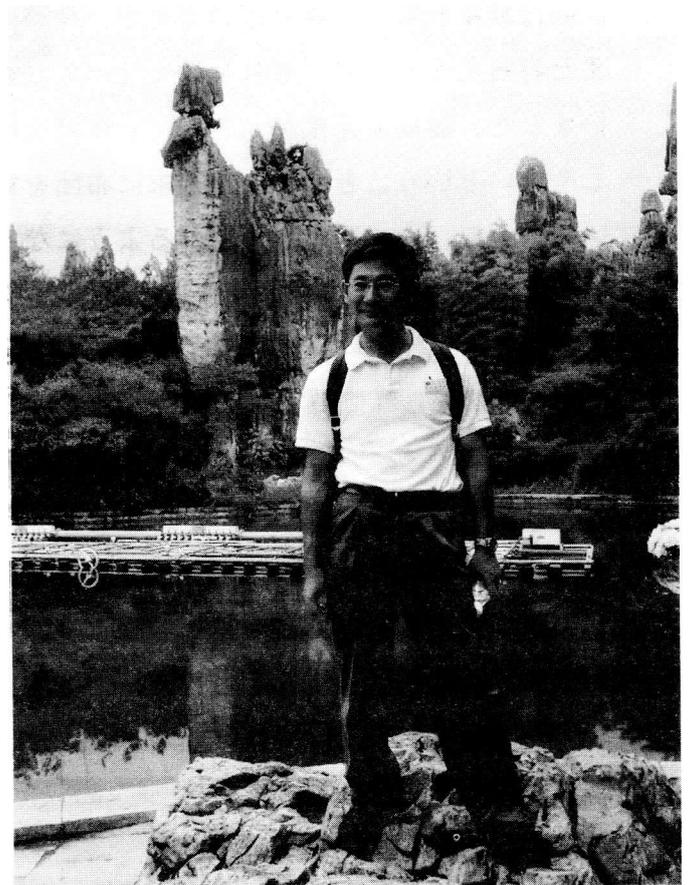
姐といます) もきれいになって、町がはなやかに
かになってきた。商業街とって、今ではイン
ターネットにも掲載されるほどになった。この
商業街まで歩いて15分位。

今後の大きな課題は、日本人学校だと思われ
る。駐在している人のほとんどが単身。まれに
夫婦で住んでいますが、その人たちは、学校前
の子供持か老夫婦がほとんどだ。独身の人は中
国人小姐と結婚する人も珍しくない。私の場合
も他の人と同じで単身、大体週一回はゴルフ、
飲み屋は、月2、3回程度? ちなみにカラオ
ケは中国語しか歌わない。工場内では、できる
だけ中国語で会話すが、本当に難しい。

ここからは、蘇州の紹介をしよう。ここ蘇州
には中国四大名園のうちの2つ(留園、拙政園)
が存在するくらい有名な観光地だ。他にも獅子
林、西園などがある。また、毎年大晦日のゆく
年くる年でテレビに出てくる寒山寺、蘇州のシ
ンボリック存在で町から浮かんで見える虎丘とい
ったところが有名で、毎日観光客でにぎわって
いる。大晦日の寒山寺には、日本からの観光客
で大渋滞になるくらい。食べ物ではやはり上海
蟹だろうか。上海蟹と言っても蟹の収穫場所は
蘇州。10月から12月しか食べられない。味は
良いが食べるのが面倒だ。私のような北陸人は
越前蟹の方がやっぱりよい。

現在、出戻り後2年3ヶ月になるが、いまや、
日本企業の中国進出はとどまる気配がまるでな

い。我社の場合も中国工場の増設をしており、
いつ帰国できるか全く予想できない状況だ。そ
れどころか、日本に戻る職場すらなくなりそう
…(笑)。というわけで、上海、蘇州方面に来る
ときは是非ご一報ください。



現役時代は超スマートで、いつもリスのよう
にシュルシュルと山を歩いてた岡崎くん。
少し貫禄がついてきたかな…? 蘇州の水、
意外と合っているのかもしれないぞお〜。

●ブラジル・サンパウロだより

克己です。元気ですか？ 私、乗馬、始めました。

21期 山口 克己

【21期主将の山口克己くんは平成15年春よりサンパウロに単身赴任中。21期とその周辺の愉快的仲間たちで、ブラジル、中国と、メール交換をしています。その一部より編集させていただきました】

Sent: Wednesday, April 02, 2003 5:54 AM

Subject: 花見の季節です

克己です。皆さんお元気そうで何よりです。そちらは、花見の季節ですね。毎年この時期は意味もなく浮かれていましたが、今年はちよっと違いますね。

前は朝夕肌寒いと書いたのですが、今週はまた打って変わって、晴れて暑くなってしまいました。温度の変化が大きくて、体調を崩しやすいということです。先週末に布団を買いに行き、ぬくぬくと寝られるようになったのですが、またいらなくなったりするようです。こちらでは、これから秋ということで、日本の柿が売られています。品種は富有です。結構うまいですよ。日系人の人が持ち込んで普及させたようです。

もうあつという間に、4月ですね。

いやびっくりしました。では、また。

Sent: Wednesday, April 16, 2003 6:30 AM

Subject: 県庁立派すぎ？

こんにちは、克己です。

金沢情報とてもありがたい情報でした。なんか県庁立派すぎるような感じですね。しかしあんなに海が近いところに行ってしまったんですね。とても眺めが良さそうです。梅さん

は通勤が大変になったんでしょう。農水省から出向している人も今二人ほど知っていますが、あんなきれいなビルでいいですよ。農水省のビルは霞ヶ関でも古い方ですから。財務や文部は古いけど、カッコいいですから。農水は古いだけです。

ところで県庁の跡地はどうなるんですか。

兼六園の桜が立派で羨ましいです。夜桜も良いですね。

やはり桜は日本人にとって特別な花ですかね。

先週の日曜から乗馬学校に入りました。週1回のレッスンで、1回30分ですが、月の授業料が175リアルです。いま1ドル3.15リアル位ですから、1リアル38円くらいだと思います。安いです。初回はあつという間に時間がたってしまいました。

こちらでは、もうあちこちで初対面の日本人に頼りっぱなしです。サンパウロには県人会もあるんですよ。日本人、日系人を含め長崎県人会は300人くらいだとか。もちろん石川県人会もあります。今年1月に加賀宝生がこちらで披露されたらしいです。では、また。

Sent: Friday, April 25, 2003 7:23 AM

Subject: アパート公開

皆さんお元気ですか。



サンパウロのヤマグチです。
こちらは今午後7時をすぎたところです。時差は12時間ありますので、皆さんはこれから起きて仕事に出かける準備など始めている頃かと思います。

もうすぐゴールデンウィークで少しくうきしている頃でしょうか。こちらは、先週の金曜から今週の月曜まで復活祭の連休がありましたが、ゴールデンウィークはありません。現地の休みと日本の休みと両方休むのかと思ったのですが、どうも違うようです。天皇誕生日と年末年始は日本の暦で休むようですが。サンパウロのアパートをお見せします。

17階建ての3階に住んでいます。日本で言う1階はテハ（地球）といい、日本の2階がこちらの1階です。1フロアーには2軒しかないのです、全部で34軒ということになります。本当はもっと高いところだと眺めもいいのですが、3階ではちょっと眺めは良くありません。写真では向かって左側が僕の住んでいるところです。アパートの前は結構交通量が多くて、朝早くから夜遅くまで車の音が気になります。治安もあまり良くないところと言われていいますので、夜遅く帰るときには、ちょっと緊張します。ただし、職場は歩いて5分だし、24時間営業のスーパーもすぐ近

くにあって便利です。実はそのスーパーの近くでよく強盗がでるのですが…。お元気で。

Sent: Friday, June 3, 2003 6:23 AM

Subject: いよいよ6月

ご無沙汰しています。皆さんお元気ですか。こちら半日遅れで、6月になりました。当地は先週末もとても気持ちの良い秋晴れで、雲一つない晴天でした。日差しに当たると暑いのですが、木陰などはヒンヤリとします。街には、相変わらずコートやセーターを着た人たちと、タンクトップやTシャツの人が混在しています。

さて、かねてよりご要望のありましたアパート内部を公開します。部屋は、広い応接室兼ダイニングがあるほか、寝室+居室2という感じです。浴室とシャワー室が別々にあり、トイレは2つです。そして洗濯室があつて、洗濯物は室内に干すことになっています。どうも外に干してはいけないようです。そうそう、ブラジルのトイレでは、紙を流してはいけないのです。紙を流すと詰まってしまうので、使用済みの紙は備え付けのゴミ箱に捨てます。

ブラジルに旅行に来た時には、ご注意ください。お元気で。

新ネパール紀行 「ネパールで感じたことなど」

20期 久富 象二

ここ数年、職場の友人達と海外旅行へ行くのが恒例となっている。行き先は休暇日数と予算の制約からアジア近辺が多くなっている。これまで、トルコ、インド、カンボジアと、あまりポピュラーでない所へ出かけてきた。今回はチベットへとも思ったが、ネパールへ行くことにした。お目当てはエベレストへの遊覧飛行だ。

2003年2月1日、バンコク経由でカトマンズのトリブバン空港に降り立った。「カトマンズはレンガ色である。」と沢木耕太郎は「深夜特急」で記しているが、標高約1,400mの霧に包まれたひんやりとした雰囲気はまさにレンガ色だ。延べで2日間ほどカトマンズにいたがいつも霧っていた。空港では銃を持った兵隊が警備していて、重々しい雰囲気があった。数日前の新聞によると、毛沢東急進派の活動が活発になり死者も出たとのことだ。

バスに乗り市内観光に出た。現地ガイドは日本人ではないかと思うほど流暢な日本語を話す現地男性。顔立ちは上品なジョン・トラボルタというところか。ダルバール広場は人通りが多く中世の雰囲気が残る雑然とした広場だ。広場に面した民家の2階の窓からぼんやりと通りを見下ろす女性を見かけた。一角には10人ほどの若者達が日中にもかかわらずカードで遊んでいた。こういう光景は日本では目にすることがなくなった。時間の流れ方が違う。善し悪しは別だ。大通りの交差点でも何をしてもなく大勢の若者達が屯していた。本当に何をしているのだろうか。

広場の中心部にある「クマリの館」には少女神「クマリ」が住んでいる。ヒンズー教や仏教の女神が少女の体を借りてこの世に現れると信じられている。少女の間だけ、つまり

初潮を迎えるまで女神であり続ける。クマリはカトマンズに住む少女の中から選ばれるが、その身体的条件が32あるという。その中には“ほら貝のような首”とか“子牛のようなまつげ”とか“美しい影”というのがある。館の中庭の賽銭箱にたくさんお布施をしてカメラをしまうと「クマリ」は館の2階の窓からちょっとだけ顔をだした。ほら貝のような首であったかはわからない。

その日のホテルは「シャングリラホテル」だったが、折りよく主人の結婚式の日で、僕達もパーティーに招待された。広い中庭に松明が焚かれ、バイキング形式で料理や飲み物がふるまわれた。日が落ちると急激に冷え込み、寒さをこらえながらワインなどを飲んで、赤と白の衣装で着飾った花嫁さんと一緒に写真を撮ったりしていた。プールサイドではエレキバンドが演奏していたので行ってみると、小学生くらいの女の子達が踊っており、僕達を見るとしきりに一緒に踊ろうと誘う。最初は、なにしろどう踊ればよいかわからず恥じらいもあり断っていたが、無理矢理引きづりこまれてしまった。見よう見まねで手足を動かしているうちにようやく曲が終わりホっとしてベンチで座っていると、こんどは年配のおじさんが一緒に踊ろうと誘う。しかたなくおじさんの動きに合わせてステップを踏んでいたが、地元の民謡と思われる曲に合わせたおじさんの動きはとでもリズムミックで、ネイティブには敵わんなど思いながら、真似ているうちに何となくさまになってきた。おじさんは、曲が終わるとまた踊ろうと誘う。こんなふうにしてさらに2、3曲踊るともう恥じらいもなくなってきて、女の子たちの踊りの輪の中へ入って行って彼女らの真似をして聞こえるまま意味もわからず「レッサム！」と

叫んでいた。ここは本当にカトマンズなのだろうか、ふと夜空を見上げて思うのだが、既に体は順応してしまっていて「レッサム！」と叫び続けていた。ネパールの人たちは思いのほか陽気で、皆踊りが上手だ。



「レッサム！」

翌日はポカラまでバスの旅。延々6時間。途中、アンナプルナやマナスルなどヒマラヤの山々が見えた。ガイドさんによると、このところ天候が悪くこの日は1週間ぶりの眺望であるとのこと。ポカラに着いたのはもう真っ暗になってからであった。

翌朝はサランコットへ朝焼けのヒマラヤを見に出かけた。天候がよく刻々と朝日を浴び姿を変えていくマチャプチャレを見ることができた。ポカラはマチャプチャレの町である。どこからでも魚の尾（マチャプチャレ）のような峻険な姿を見ることができる。

アンナプルナサウス（7,912m）、アンナプルナI（8,091m）、マチャプチャレ（6,993m）、アンナプルナIII（7,555m）、アンナプルナIV（7,525m）、アンナプルナII（7,937m）、ラムジュン・ヒマール（6,986m）、これらがポカラか

ら眺めた山々である。ホテル「シャングリラ・ビレッジ」のプールサイドには美しい花が咲き乱れていた。ベッドに寝そべりながらこれらの山々が見られる。山々を眺めていると尺八の音が聞こえてきた。このツアーの一員である兵庫から来たおっさんが持ってきた尺八を吹いているのだ。ヒマラヤに尺八、奇妙なマッチングだ。

この日のペワ湖のほとりでの昼食は、生卵つきのスキヤキだった。日本米に近いご飯だった。ネパールのご飯はタイ米より細くてパサパサしている。まずいとは思わないが、そのままではハシでつまめず、カレーや豆のスープなど汁気がないと食べにくい。ペワ湖の周辺ではチベット難民がみやげものをしきりに売りにきた。湖の向こうにはダウラギリがほんの少し顔をのぞかせていた。あれが8,000mもあるのか？

2月4日、ポカラから再びカトマンズへ。今度は飛行機。機内で隣合わせた現地ガイドに、ずっと聞きたかったことを尋ねた。佐野真一のノンフィクション「東電OL殺人事件」の容疑者のことだ。東京電力に勤める女性エリート社員が、仕事を終えた後売春をしていて、ある夜客に殺害されてしまった事件だ。容疑者としてネパール人のゴビンダという男性が逮捕されたが、佐野真一は被害者の売春がお金のためではなく毎晩4人の客を取ることを自らに課していた、いわば「業」とも言えるその異常な行動の背景を探り、さらにゴビンダの無実を力説している。ゴビンダは結局最高裁で逆転有罪判決を受けることになるのだが、ガイドにこの事件を知っているか、また同国人としてゴビンダのことをどう思うかと聞いてみた。答えは意外とそっけなく、事件があったことは知っているが特別の思い

を抱くほどネパールでは詳しく報道されていないということであった。

ヒンズー教のお寺、パシュパティナートの対岸には火葬場がある。遺灰は聖なる河、パグマティ川に流される。僕たちがお寺に着いた時、火葬の煙が上がっていた。遺体はオレンジ色の布で覆われているのですぐわかる。異臭が漂っていた。

ボダナートにはネパール最大のストゥーパ（仏塔）がある。知恵の目と言われる大きな目玉が2つあるやつだ。チベット仏教徒の重要な巡礼地で、赤い法衣を着た僧侶がたくさんお参りにきていた。年若い僧侶も多く、大きな黒い靴と赤い法衣とが不釣り合いだった。五体倒地礼という体を投げ出してお参りする人たちもいた。大そうな人出だった。

さて、最終日はメインイベント、エベレストへの遊覧飛行だ。このツアーを主催した阪急交通社が一切関知しないツアー客の勝手な行動だ。20人乗りの小さな飛行機で出発した。この日も快晴だがさすがによく揺れる。スチュワーデスはインド人風の美人。彼女は上空でヒマラヤの山々の名前を一人一人、窓を覗きながら一生懸命説明してくれるのだが、英語なのだろうが全くわからない。しかしさすがにエベレストだけはわかった。かなり接近してくれたので、岩肌をはっきり見ることができた。

ジョン・クラカワーの「空へ」はエベレストで1996年に起きた、日本人瀧波康子を含む10数名の大量遭難事故のノンフィクションだが、一方でエベレスト登山の「営利事業化」の実態もルポしていて興味深い。一人数百万円（1千万円に近い？）で登山客を公募して、「営業遠征隊」を編成するが、「空へ」によるとベース・キャンプの豪華さは次のよ

うだ。

- ・ やがて行く手に彩り華やかなナイロンドームの町が広がった。300張り以上のテントが、岩や石の散らばる氷河上に点々と広がっており・・・
- ・ 食堂テントはキャンバス製で、その中には巨大な石のテーブルや、ステレオシステム、図書コーナー、太陽電池の電灯などがある。
- ・ 通信テントには衛星通信電話とファックスを備えている。
- ・ 食堂要員が沸かした湯をバケツに入れてゴム・ホースで注ぐ方式の即席シャワーもある。
- ・ 数日に一回、焼きたてのパンと生野菜が何頭かのヤクの背で運び込まれる。
- ・ 毎朝かかさず、・・・（コックとキッチンボーイが）各テントを回り、マグ・カップに容れた熱々のシェルパ・ティーを、寝袋に入ったままのわたしたちに手渡ししていく。

これらのことが高度5,360mの地点で行われているというのだ。

遊覧飛行機の窓から見たエベレストの岩肌は、冷たく、鋭く、人間の腕力と脚力では到底太刀打ちできるもではないと直感するほど圧倒的だった。僕にとってはヒマラヤの山々は見るだけの対象だ。世界一高い山と、「少し山登りをしている」自分との“隔たり”を突感した。だから、ポカラのホテルのベッドで寝そべって、ウイスキー（マウント・エベレストウイスキーという名の地元産）をちびりと飲みながらマチャプチャレを眺めた時、それで十分満足できたのだった。これが今回のネパール旅行最大の収穫かな。

ワングルの卒業生は皆OBです

何をいまさらとお思いでしょう。OB会会則第2条にも「本会は金沢大学ワングルフォーゲル部に所属した卒業生で構成する」と記してあります。そして、会則には退会の規定はありません。つまり、OBになったら最後、雨が降ろうが槍が降ろうが、会の運営に不満が有ろうが無かろうが、会費を納めようが滞納しようが、永久にOBなのです。(ここまで書いて、本人も背筋が若干寒くなっています)過去にちょっとした行き違いからOB会を辞めると誓った人もいたようですが、それは心の中の問題、OB会はいつでもドアをオープンにしていますので、是非また入ってきてください。

名簿の管理と各期連絡員

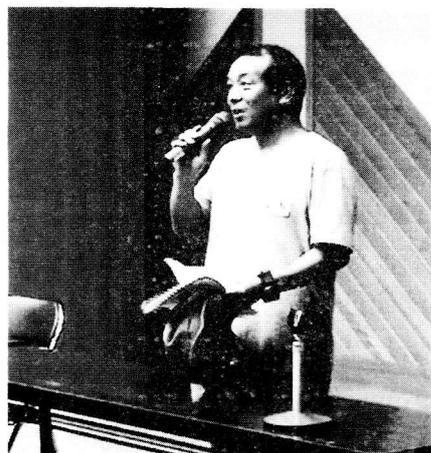
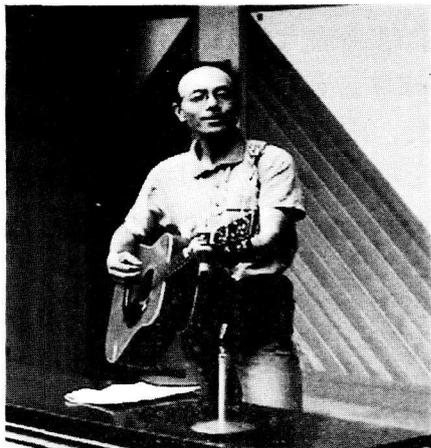
新事務局の方針として、無理せず楽しんでやろうと考えています。とは言え、最低限しなければならぬこととして、会費の徴収と名簿の管理があります。会員あつての会ですから常に連絡できるようにしておくことが理想で、各期の連絡員に頼るところが大きくなります。総会の時に提示しなかった新連絡員ですが、当面は従来連絡員の方(下記参照)になっていただくことを、この場を借りてお願いいたします。また、OBの皆様におかれましては住所変更、Eメールアドレスの取得、変更等がありましたら事務局(名簿担当)までご一報いただければ幸いです。

各期連絡員(空欄は調査中)

1～3期	北 正昭	4期	鈴木 正国	5期	稲葉 正己
6期	合津 尚	7期	沢田 孝雄	8期	山村 嘉一
9期	白井 勇	10期	山知 亮	11期	青柳 健二
12期	赤地 賢一	13期	大島 良治	14期	浅見 裕子
15期	坂尻 忠秀	16期	北川 隆次	17期	渡辺 和文
18期	椿川 利弘	19期	榎 典雅	20期	久富 象二
21期	村松 鋭一	22期	森 恵利子	23期	名倉 均
24期	麻田 正弘	25期	高橋 伸治	26期	藤田 章三
27期	二木 博子	28期	浜本 信一	29期	高木 美保
30期	野田 和裕	31期	水越英四郎	32期	小山 恵介
33期	奥出 俊一	34期	金田 学	35期	吉田 稔
36期	石川 明弘	37期	柴田 祐介	38期	吉原 正敏
39期	老田 浩章	40期		41期	
42期		43期		44期	
45期					

※この「やまざと」18号はワングルOB全員の皆様へご送付させていただいています。盃片手に気軽にご覧いただけるよう、軽い内容に作りました。ご笑覧、ご笑読下さい。

新役員の一部の方をご紹介します。(上の写真より)
会長■19期・榎 典雅
幹事■20期・深田 進
幹事■22期・森 恵利子
会計■23期・鳥越 伸博



OB会・会報誌「やまざと」vol. 18 (2004新年号)

発行日■平成15年12月

発行者■榎 典雅

編集責任者■大野 直子

印刷■プリントショップ多田

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

事務局■〒920-0226 石川県金沢市栗崎町2-111

電話076-237-8706 (大野直子)

E-mail ohno@yu.incl.ne.jp

KUWVOB会 HP■ <http://www001.upp.so-net.ne.jp/ma-okuna/kuwv/index.html>

(15期・奥名氏が管理するホームページ。最新情報も得られ、面白いですよ!!)

榎 典雅 会長 E-mail togatoro@yahoo.co.jp

名倉 名簿担当 E-mail nag@po3.nsknet.or.jp

振込口座■郵便局/00780-3-14120/金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

振込口座■北國銀行本店/普 223703/金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会